

ダニエル・リー著

SS将校のアームチェア

二〇二一年、フランスの母親が一九六八年、プレススタンス研究で博士課程を修了したばかりの著者はフィレンツェの欧州大学院で研究指導の仕事をはじめた。友人・同僚を招いたディナーパーティで博士課程のオランダ人女性から、「つい先日母に起こった」出来事についてアドヴァイスを求められた。アムステルダムでアームチェアの張替えを発注したが、数日後受け取りに行くと、家具修理職人から「ナチやその家族のために仕事はしない」と言い放たれたという。座面に縫い込まれていた書類は親衛隊(SS)将校ローベルト・グリージンガーのもので、パスポート、法学博士号取得二年後の上級公務員試験二次試験の合格証明書など経歴書類一式。シュトゥットガルト生まれ、テュービンゲン大卒法務官、SS入隊とその後の順調な出世、最後は占領下プラハの経済労働省官僚。椅子は院長

の母親が一九六八年、プラハ・カレル大学学生の時中古で買ったものだった。ここから著者の「紆余曲折に満ちた歴史的发見」が始まった。欧米七カ国の文書館、家族・子孫などへのインタビューなど調査は徹底していく。

この祖母が孫ローベルトと「特別な絆」があった。彼は子供のころから、白人至上主義・人種の偏見と無縁ではなかったのだ。一八七三年からの金融危機・大不況で一家の幸運は終わりを告げた。運

「無名の」下級将校について書かれた本はこれまでなかった。SSは戦後犯罪組織とされ、歴史の記録から消え、あるいは隠されてきた。まさにこの未開拓・未解明の歴史の解明に大きな貢献をしたのが本書だ。何千何万の下の級官僚がナチの恐怖支配と殺戮に関与していたのである。十九世紀ド

未開拓の歴史を解明する

グローバルな歴史とファミリーヒストリーの多次元的なかわり

永 岑 三 千 輝

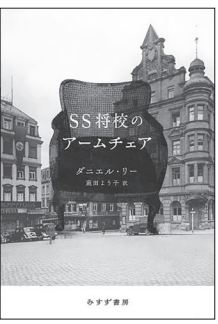
一九〇六年生まれのローベルトは、ヒムラーやハイドリヒ、第一次大戦には出征するには若すぎたその他何千人と同様に、いわゆる「戦中世代」または「ヴァイマル少年」世代だった。戦争という壊滅的体験、国家が受けた屈辱、戦後の新共和国樹立直後の無秩序に影響を受けていた。彼は成長の過程で母親との絆を深め自分の考えや感情(民族主義・国家主義)、将来への希望を打ち明けていた。母がそれを克明に日記に記していた。この日記の発掘・解説こそが本書の土台である。貴重な一次資料が叙述を生き生きとさせている。

SSについてこれまでさまざまなが書かれてきたが、組織がどのように機能していたのか、下級隊員がどのように日々の生活を送っていたのかについて、現代の歴史家でもまだ把握してないことが多い。SSの「無名の」下級将校について書かれた本はこれまでなかった。SSは戦後犯罪組織とされ、歴史の記録から消え、あるいは隠されてきた。まさにこの未開拓・未解明の歴史の解明に大きな貢献をしたのが本書だ。何千何万の下の級官僚がナチの恐怖支配と殺戮に関与していたのである。十九世紀ド

野心的な親戚に取り囲ま

命下降の中、ヒスマルク帝政の経済的繁栄で興隆著しいドイツへの帰郷が一家の唯一の選択肢となった。八〇年代初頭、祖父の故郷、西南ドイツ・シュトゥットガルトに移り住んだ。一家はアメリカ的発想や文化、行動規

★ダニエル・リーは歴史学者。専門は、第二次世界大戦およびホロコーストにおけるフランスと北アフリカのユダヤ人の歴史。



四六判・398頁・4400円
みすず書房
978-4-622-09034-2
TEL. 03-3814-0131

